

FF式暖房機

一酸化炭素中毒事故。
平成17年に4件発生。
死亡者2名。



消費生活用製品安全法の規定
に基づく回収等の緊急命令



CO中毒の原因を徹底調査。
ホース劣化原因、
燃焼排ガス漏れのメカニズムを解明。

製造事業者による製品回収

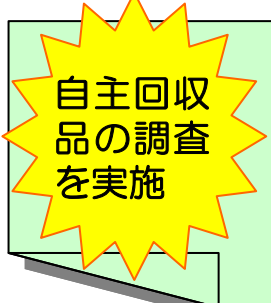
法改正

安全装置の設置や、劣化に対する点検の実施による再発防止対策を提言・公表

当該製品を含み、長期使用製品安全点検制度が導入された。

ガス給湯器

一酸化炭素中毒事故。
平成17年11月までに28件発生。
死亡者21名。



CO中毒の原因を徹底調査。
排気ファン作動不良、燃焼排ガス漏れのメカニズムを解明。

消費生活用製品安全法の規定
に基づく回収等の緊急命令

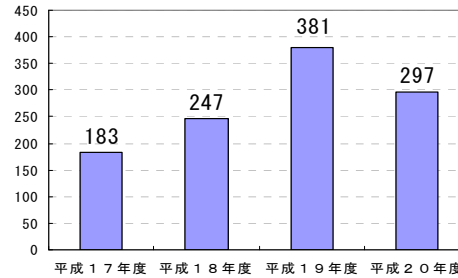
製造事業者による製品回収

スピーカー

スピーカー内部のランプの発熱によりウレタン製の吸音材が発火し、延焼。



警察・消防機関からの事故通知受付件数



食器洗い乾燥機

食器洗い乾燥機から出火し、周囲を焼損。



合同調査
平成20年度
46回
(警察含む)

大学、消防と共同で事故原因を究明

アンプの故障によりスピーカーに異常電流が流れ、スピーカーの保護ランプが異常発熱し、接触していたウレタン製の吸音材が発火したものの。

製造事業者による構造の変更

消防と共同で事故原因を究明

ファンモーター一部に洗浄水が浸入し、モーター部品に傷があったため、異常な電流が流れ、過熱して発火に至ったもの。

製造事業者による製品回収

事故原因の究明事例 ③ (医療機関と連携)

デスクマット

平成17年、両腕の手首から肘にかけて皮膚炎(紅斑)を発症。以後、同様事故が多発。



医療機関からの事故通知(全品目H17~H19:71件)

ポリ塩化ビニル手袋による皮膚障害

ポリ塩化ビニル手袋の使用による皮膚炎を発症した事故が多発。



日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会と協力(パッチテスト等)し、事故原因を究明

NITE化学物質管理部門との連携により、皮膚炎発症の原因物質(有機系抗菌剤)を特定

製造事業者による製品回収

厚労省へ情報提供同省が重大製品事故として公表

日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会と協力(パッチテスト等)し、事故原因を究明

NITE化学物質管理部門との連携により、皮膚炎発症の原因物質(安定剤及び可塑剤)を特定。

業界全体で製造材料変更

(活用)

(活用)

化学センター
化学物質D/B

おしゃれ用 度無しカラーコン タクトレンズ

若者たちの間で流行している度無しカラーコンタクトレンズの装用による眼障害が多発。



医療機関からの事故通知
平成19年度28件

生活者から求められるレンズの安全性について、有識者、関係省庁等(厚労省、国立医薬品食品衛生研究所、国民生活センター等)からなる委員会をNITE内に発足

1. 製造、流通等

2. 装用被害、使用実態状況

(社)日本眼科医師会の協力のもと、眼科医(12,877人)を受診した患者にアンケートを実施。(実施期間:平成19年12月から平成20年2月)

眼科医145人から186件の眼障害事例の回答

3. 製品の品質・表示調査

4. 海外規制

安全性及び海外規制等の実態調査を実施

経済省、厚労省に眼障害を防止するための提言

薬事法の対象に!

施行令を改正、21年11月施行

電動車いす

日常生活における移動に不自由をきたした高齢者等が利用するハンドル形電動車いすで重大事故が多発。



安全性に係る実態調査を実施

種 別	1.死亡	2.重傷	3.軽傷	4.拡大被害	5.製品破損	6.被害なし	合計
ジョイスティック形	1	1	4		6	1	13
ハンドル形	23	5	4		25	2	59
不 明	17	4	1	1	1		24
合 計	41	10	9	1	32	3	96

2008年1月までにNITEが受付けた事故情報の内、**ハンドル形の事故が61%**を占める。
ハンドル形の事故の内、人への被害があった場合は、**重篤な結果**を招く場合が多い。

- ・2007年度末に、現在市販中のハンドル形電動車いすの試買テストを実施し、提言をとりまとめ、経済産業省に報告。
- ・現在、任意規格であるJIS規格の改正内容を規定するべく作業中。
(平成21年12月20日 公布予定。)

事故原因の究明事例 ⑥ (対策を提言)

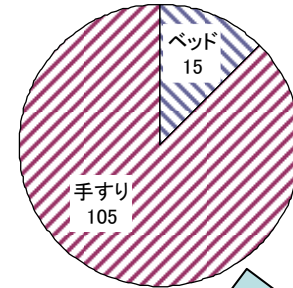
介護用ベッド

平成13年～平成20年10月
末までの介護用ベッド(電動
ベッド含む)に関する事故情報
は120件。うち、介護用ベッド
の手すり(サイドレールを含む)
に関する事故情報は105件。

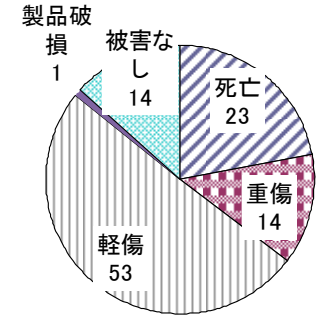


安全性
に係る
実態調査
を実施

介護用ベッド種類別
事故件数(全120件)



介護用ベッド手すり被害別
(手すり事故全105件)



社告

介護用ベッド:1件
介護用ベッド手すり:1件

介護用ベッド手すりの死亡事故の再発防止のための規格基準の作成

- ・介護用ベッド手すりの隙間による**頸部の挟み込み**の死亡事故に対する再発防止対応
- ・NITEで実施中の福祉用具の共通規格開発事業で得た基礎データを提供・活用

介護用ベッド手すり(グリップ)は、日本工業規格(JIS)に基準がなかったため、NITE、経済産業省、日本福祉用具・生活支援用具協会、文化用品安全試験所が協力して頸部挟み込みを確認する試験方法を作成し、JIS T 9254(在宅用電動介護用ベッド)に盛り込んだ改正案を作成した。(→ 2009年3月20日制定)

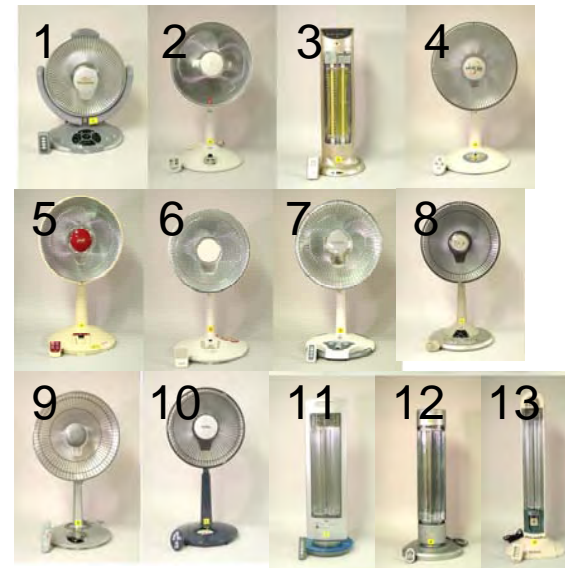
事故原因の究明事例 ⑦ (基準の改正)

電気ストーブ

家電製品のリモコン操作やノイズで、電気ストーブのヒーターが点灯するなどの誤作動を起こす情報を入手

ヒヤリ!
ハット!!

市場製品を
緊急試買
実態と安全性
を確認

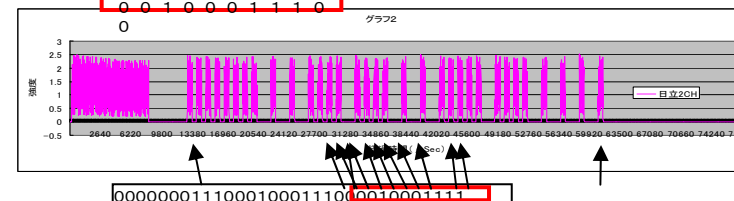
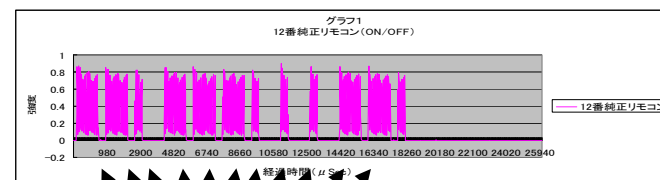


リモコン付き電気ストーブが他の電気製品のリモコン操作で誤作動確認

誤作動によって意図せず電源が入ることにより火災事故等が生じる可能性があり経済産業省へ報告

電気用品安全法の技術基準を改正
◆リモコンによる電源のON機能の禁止
平成19年9月18日から施行

事故の未然防止に寄与!

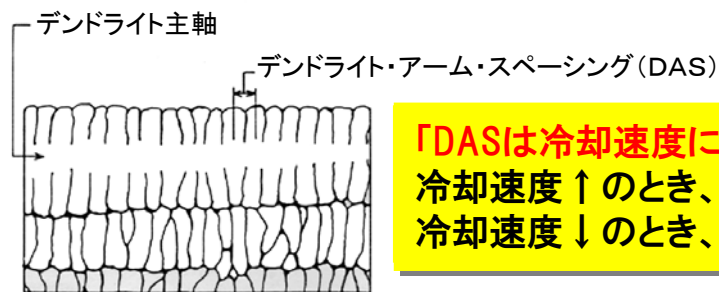
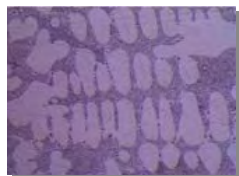


参考：NITEが開発した原因究明手法

凝固時の冷却速度を左右する短絡時の雰囲気温度の推定により、一・二次痕を解析する。

➤DAS法：短絡痕断面にデンドライト組織(樹枝状(木の枝のように成長、発達した)の結晶組織)が観察された場合に適用する方法

デンドライト組織

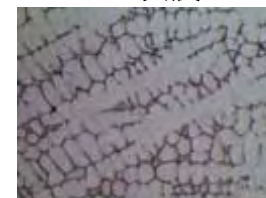


「DASは冷却速度によって変化する」
冷却速度↑のとき、DASは↓
冷却速度↓のとき、DASは↑

一次痕



二次痕

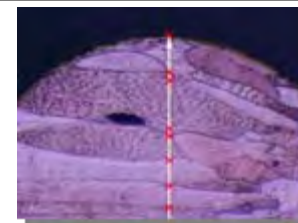


➤CS法：デンドライト組織が観察されない場合に適用する。

銅の溶融凝固組織である短絡痕の結晶サイズが、冷却速度に依存する性質を利用したもの。



実験短絡痕におけるセルサイズ測定の場合



※過電流によって溶断した溶融痕(2極の心線のうち片側のみが溶断)には適用できない。